

斑点米カメムシ類の発生予察注意報の発表について

- ・県内全域で、イネカメムシに加え、他の斑点米カメムシ類が多くなっています。
- ・気象予報によると、今後、イネカメムシが増加しやすい高温・少雨傾向が見込まれています。

1 発表の内容

- (1) 作物名：イネ
- (2) 病害虫名：斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ：参考資料 写真1、
ホソハリカメムシ：参考資料 写真2、
アカヒゲホソミドリカスミカメ：参考資料 写真3、
アカスジカスミカメ：参考資料 写真4）
- (3) 対象地域：県内全域
- (4) 発生量：多い
- (5) 注意報発表の根拠
 - ・7月下旬の定期定点すくい取り調査の結果、上記4種の斑点米カメムシ類が県内全域で平年より多い（参考資料 図1）。
 - ・特に被害が懸念される大型のクモヘリカメムシは、吾妻地域、東部地域で平年より多い（参考資料 図1）。
 - ・関東甲信地方の向こう1ヶ月の気象予報（8月21日気象庁発表）では、今後、斑点米カメムシ類が増加しやすい高温・少雨傾向となる見込み。
- (6) 防除対策
 - ・畦畔や休耕地の除草は、イネの出穂期の2週間前までとします（参考資料の3を参照）。
 - ・農薬による防除を2回行います。
 - 1回目：穂揃期
 - 2回目：1回目の防除の7～10日後頃
 - ・イネカメムシ（参考資料 写真5）と他の斑点米カメムシ類が同時に生息する水田ではイネカメムシの適期防除を優先させます（参考資料の3を参照）。

2 斑点米カメムシ類とは

- ・イネを加害し、籾からデンプンを吸い、不稔による減収や、玄米を黒くしたり、黒い斑点が生じる斑点米（参考資料 写真7）を産出し、等級落ちの被害を生じさせるカメムシの総称。
- ・群馬県では、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメの4種に加え、8月7日に注意報を発表したイネカメムシ、令和5年に発生を確認したミナミアオカメムシ（参考資料 写真6）を調査対象としています。

3 その他

- ・令和7年4月1日～8月20日までに33府県で43報の斑点米カメムシ類（イネカメムシのみを含む）注意報等が発表されています（参考資料の4を参照）。

令和7年度 発生予察注意報 第3号

★県内全域で、イネカメムシに加え、他の斑点米カメムシ類が多くなっていますので注意が必要です。

1 注意報の内容

- (1) 作物名：イネ
- (2) 病虫害名：斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）
- (3) 対象地域：県内全域
- (4) 発生量：多い

2 注意報発表の根拠

- (1) 7月下旬の定期定点すくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類（上記4種）が県内全域で平年より多くなっています（表1）。
- (2) 特に被害が懸念される大型のクモヘリカメムシ（図1）は、吾妻地域、東部地域で平年より多くなっています（図2）。
- (3) 関東甲信地方の向こう1か月の気象予報（8月21日気象庁発表）によると、今後、斑点米カメムシ類が増加しやすい高温・少雨傾向となる見込みです。

3 防除対策

- (1) 畦畔や休耕地の除草は、イネの出穂期の2週間前までとしてください。
出穂しているイネ科雑草は、上記4種の斑点米カメムシ類の生息地、エサ場となっています。イネの出穂期頃に畦畔や休耕地等のイネ科雑草を除草すると、斑点米カメムシ類が、エサを求めて水田に侵入し、被害の発生につながります。
- (2) 斑点米カメムシ類が水田内に侵入した場合は、次の防除適期に薬剤（液体）散布による防除を行ってください（図3）。
 - 1回目：穂揃期・・・・・・・・・・（出穂始から6日～7日目頃）
 - 2回目：1回目の防除の7～10日後頃（出穂始から13～17日目頃）
- (3) 薬剤に粒剤等を用いる場合は、薬剤が田面水に溶解・拡散し、イネに根から吸収されるための期間を見込み、(2)の防除適期よりも3～4日前に散布してください。
- (4) イネカメムシと他の斑点米カメムシが同時に生息する水田では、イネカメムシの適期防除を実施することで、他の斑点米カメムシにも効果が期待できます。

4 防除上の留意点

- (1) 農薬の散布にあたっては使用基準を遵守し、他の作物等への飛散に十分注意するとともに、周囲の生産者、住民等への事前周知を徹底してください。
- (2) 特に斑点米カメムシ類の防除薬剤は、周辺のミツバチに影響を及ぼす可能性があるため、養蜂農家への周知等、必要な被害軽減対策を講じてください。
- (3) 液剤を散布する際は、イネの株元までかかるようにしてください。
- (4) 防除に使用する農薬については、各農業事務所または、各JA、農薬販売店等にお問い合わせください。

表1 7月下旬定期定点すくい取り調査結果

上段の実数は地域平均の捕獲数（頭）を、下段の（ ）内は平年値を1とした場合の倍率を示す

地域	クモヘリ カメムシ	ホソハリ カメムシ	アカヒゲ ホソミドリ カスミカメ	アカスジ カスミカメ
中部平均	0 (—)	4 (4.7)	132 (2.6)	23 (22.7)
西部平均	1 (0.1)	7 (5.2)	88 (3.8)	35 (9.1)
吾妻平均	9 (—)	11 (—)	21 (12.7)	6 (—)
利根沼田 平均	1 (1.0)	11 (11.6)	55 (12.9)	27 (28.4)
東部平均	6 (14.7)	13 (6.0)	38 (0.8)	12 (6.3)
県平均	3 (2.6)	9 (6.7)	65 (2.0)	19 (10.5)

注 「（—）」は平年値が0のため倍率を表せないことを示す。



図1 クモヘリカメムシ
成虫 体長 約16mm

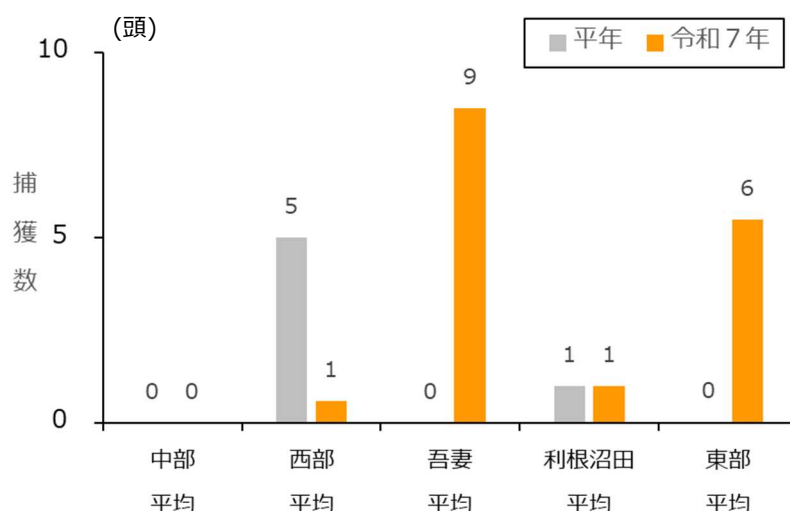


図2 地域別クモヘリカメムシの捕獲数 (7月下旬調査)

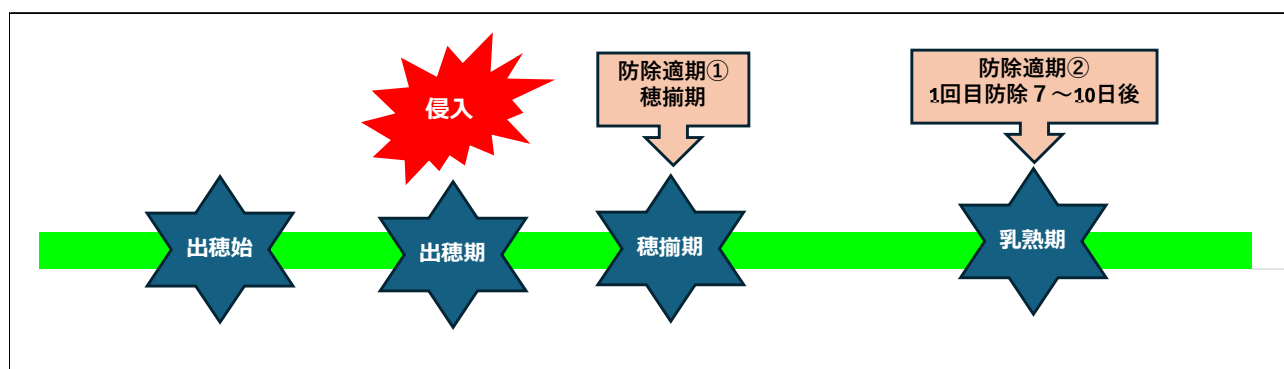


図3 斑点米カメムシ類（イネカメムシを除く）の防除適期

参考資料

1 斑点米カメムシ類について

- ・ 斑点米カメムシ類とは、イネを加害し、籾からデンプンを吸い、不稔籾や、玄米を黒くしたり、黒い斑点が生じる斑点米の被害を引き起こすカメムシです。
- ・ 現在、農業技術センターで調査を行っている斑点米カメムシ類は次の6種です。
クモヘリカメムシ (写真1)、ホソハリカメムシ (写真2)、
アカヒゲホソミドリカスミカメ (写真3)、アカスジカスミカメ (写真4)、
イネカメムシ (写真5)、ミナミアオカメムシ (写真6)



写真1 クモヘリカメムシ
成虫 体長18mm



写真2 ホソハリカメムシ
成虫 体長10mm



写真3 アカヒゲホソミドリカスミカメ
成虫 体長6mm



写真4 アカスジカスミカメ
成虫 体長5mm



写真5 イネカメムシ
成虫 体長13mm



写真6 ミナミアオカメムシ
成虫 体長15mm

※ 写真3、写真4の提供：HP 埼玉の農作物病虫害写真集



写真7 イネカメムシ被害による斑点米

2 地域平均のすくい取り捕獲数

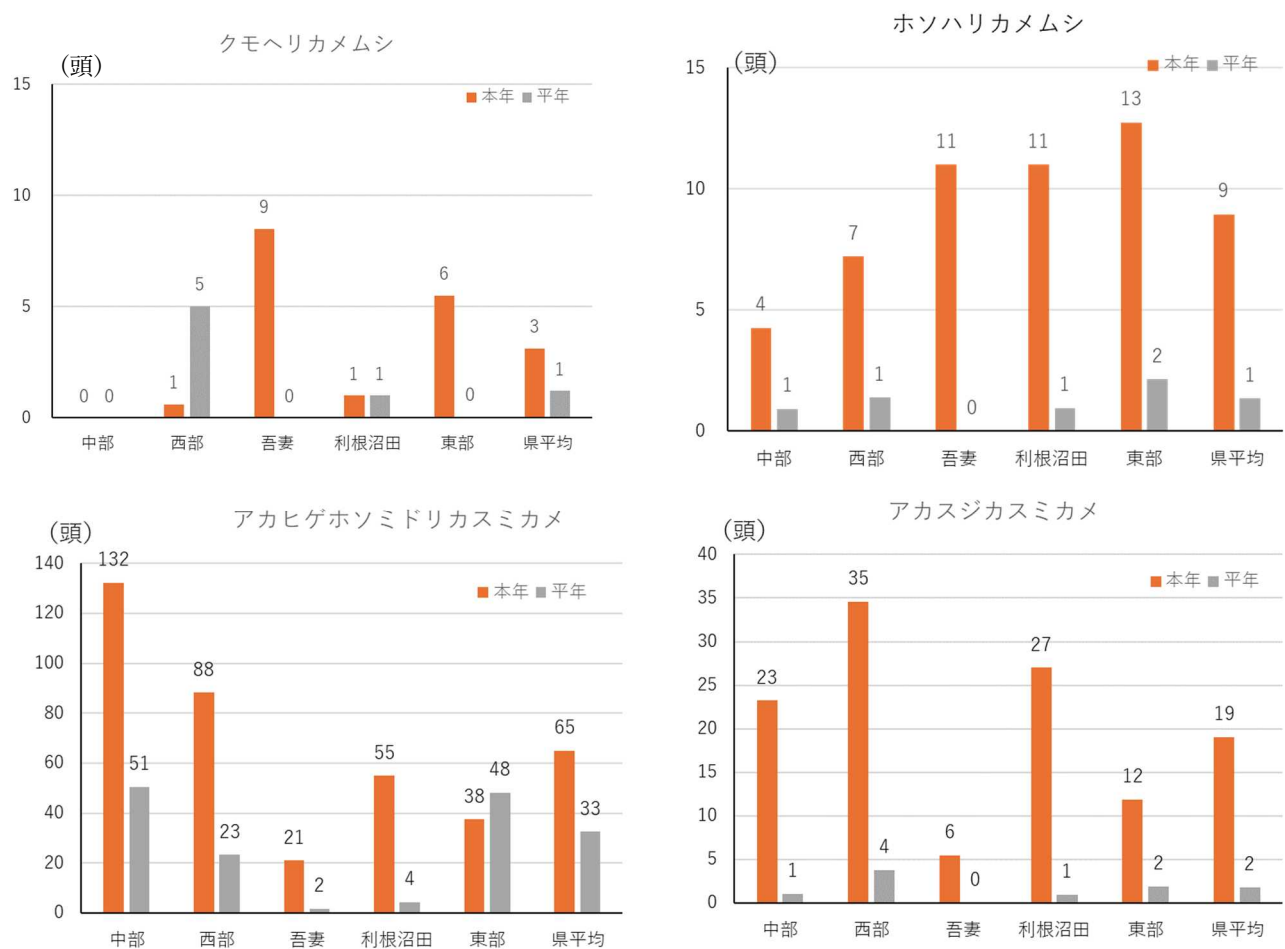


図1 4種の斑点米カメムシ類 種類別、地域別すくい取り調査捕獲数
(令和7年7月下旬調査)

3 防除対策に関する説明

○畦畔や休耕地の除草は、イネの出穂期の2週間前までとします。

- ・この4種の斑点米カメムシ類は、出穂しているイネ科雑草に生息し、エサ場としています。
- ・そのため、出穂しているイネ科雑草があれば、水田に侵入する数はほとんどなく、イネへの加害もほとんどありません。
- ・しかし、イネの出穂期頃に除草を行うと、エサ場が無くなり、水田に侵入しイネの穂をエサにするために加害します。
- ・この結果、イネで不稔籾や斑点米の被害が発生します。

※イネカメムシは、イネへの嗜好性が高いため、出穂しているイネ科雑草があっても、イネの出穂期が近づくと水田に侵入し、イネを加害します。

○イネカメムシと他の斑点米カメムシ類が同時に生息する水田ではイネカメムシの適期防除を優先させます。

- ・他の斑点米カメムシ類の防除適期は、イネカメムシに比べ数日遅いです（表1）。
- ・イネカメムシの適期防除に使う農薬は、散布後1種間程度残効があるとされています。
- ・そのため、イネカメムシの適期防除を優先して行うことにより、その後防除適期を迎える他の斑点米カメムシ類に対する効果も期待できます。

表1 斑点米カメムシ類の水田侵入時期と防除適期

	イネカメムシ	イネカメムシ以外の斑点米カメムシ類
水田への侵入時期	イネの出穂期 ^(注2) より前から侵入する事例が多い	イネが出穂した後に侵入する
1回目の防除適期 ^(注1)	イネの出穂期 出穂始 ^(注3) から3～5日目頃	イネの穂揃期 ^(注4) 出穂始から6～7日目頃
2回目の防除適期	出穂期の8日後頃 出穂始から11～13日目頃	1回目の防除の7～10日後 出穂始から13～17日目頃

注1 防除適期を出穂始を0日目として、出穂始からの参考日数を下段に掲載した

注2 出穂期とは、全体の50%の穂が出穂した時期

注3 出穂始とは、水田で初めて出穂を確認した日

注4 穂揃期とは、全体の80～90%の穂が出穂した時期

4 国内の斑点米カメムシ類（イネカメムシのみを含む）に関する注意報の発表状況

・令和7年4月1日～8月20日に33府県から43報の注意報が発表されています。

	第1報	第2報	第3報
富山	7月2日 斑点米カメムシ類	7月24日 斑点米カメムシ類	
山形	7月2日 斑点米カメムシ類	8月7日 斑点米カメムシ類	
埼玉	7月3日 イネカメムシ	7月23日 イネカメムシ	7月29日 斑点米カメムシ類
石川	7月3日 斑点米カメムシ類	7月31日 斑点米カメムシ類	
山口	7月7日 斑点米カメムシ類	8月6日 斑点米カメムシ類	
栃木	7月8日 イネカメムシ	7月14日 斑点米カメムシ類	
千葉	7月9日 斑点米カメムシ類		
福井	7月9日 斑点米カメムシ類		
茨城	7月10日 斑点米カメムシ類		
新潟	7月10日 斑点米カメムシ類		
鳥取	7月11日 イネカメムシ	7月22日 斑点米カメムシ類	
三重	7月11日 斑点米カメムシ類		
島根	7月14日 斑点米カメムシ類		
長野	7月14日 斑点米カメムシ類		
岩手	7月15日 斑点米カメムシ類	7月28日 斑点米カメムシ類	
愛知	7月16日 斑点米カメムシ類		
福島	7月16日 斑点米カメムシ類		
長崎	7月16日 穂吸汁性カメムシ類		
滋賀	7月17日 斑点米カメムシ類		
兵庫	7月17日 斑点米カメムシ類		
群馬	7月18日 イネカメムシ	8月7日 イネカメムシ	
宮城	7月18日 斑点米カメムシ類		
京都	7月18日 斑点米カメムシ類		
岐阜	7月18日 斑点米カメムシ類		
福岡	7月22日 斑点米カメムシ類		
広島	7月25日 斑点米カメムシ類		
大阪	7月31日 斑点米カメムシ類		
静岡	7月31日 斑点米カメムシ類		
大分	8月4日 斑点米カメムシ類		
佐賀	8月6日 斑点米カメムシ類		
岡山	8月6日 斑点米カメムシ類		
愛媛	8月13日 斑点米カメムシ類		
熊本	8月20日 斑点米カメムシ類		

参考 病虫害発生予察情報の種類

情報の種類	内容
予報	病虫害の発生に関する情報を定期的（月1回）に発表。
警報	重要な病虫害の大発生が予想され、すぐにも防除した方がよい場合に発表。
注意報	警報を発表するほどではないが、重要な病虫害の多発生が予想され、早めに防除した方がよい場合に発表。
特殊報	新しい病虫害が発生した時や、発生のしかたが例年と異なるなど特異的な時に発表。
その他	・「病虫害情報」：病虫害や防除についての解説や情報 ・各種トラップ調査結果 など

5 調査方法

(1) すくい取り調査

- ・道具：柄の長さが 1.2m、網の直径が 36 c m の捕虫網を使います。
- ・捕獲方法：捕虫網を、自分の体の右横から左横まで弧を描くように 180 度、イネの上部を叩きながら振り、同様に続けて自分の体の左横から右横まで弧を描くように 180 度振ります。
これで 2 回振ったこととなります。

斑点米カメムシ類のすくい取り調査は、同カメムシ類が水田内と雑草地にいることから、水田内を 20 回振りして捕獲したカメムシと、雑草地を 20 回振りして捕獲したカメムシの合計数で示しています。

【参考】

イネカメムシは、イネへの嗜好性が高く、ほとんどが水田内に侵入しています。
また、水田内に均一にいない可能性があると言われています。
そのためすくい取り調査では、1 水田で 20 回振り 4 か所行い、その合計した捕獲数をデータとして示しています。



写真 8 すくい取り調査

水田内のすくい取りで
カメムシを捕獲してい
る様子